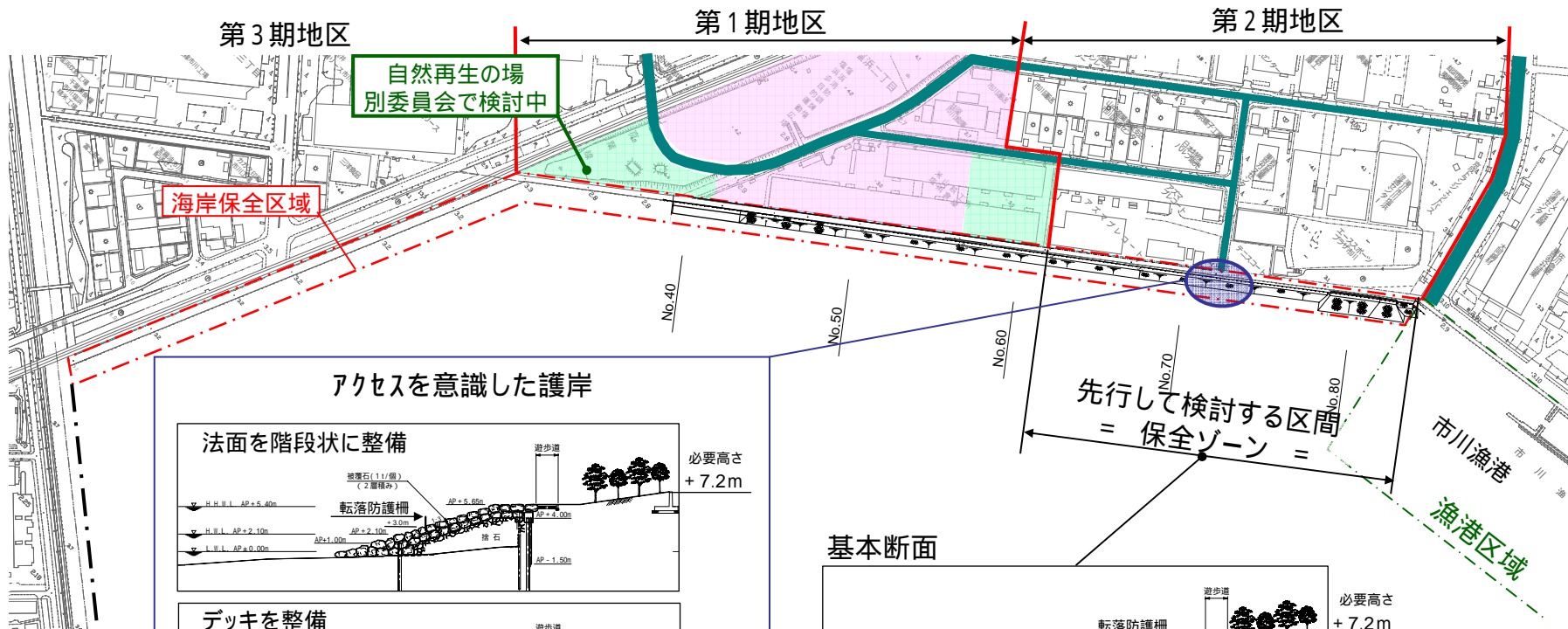
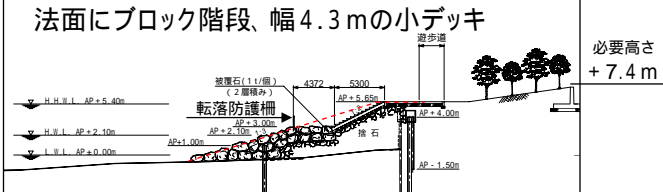
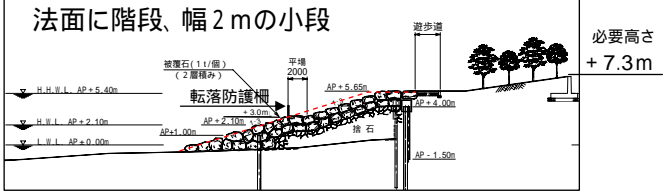
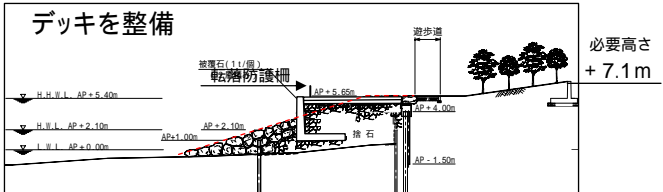
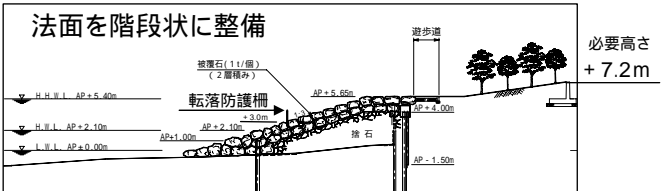


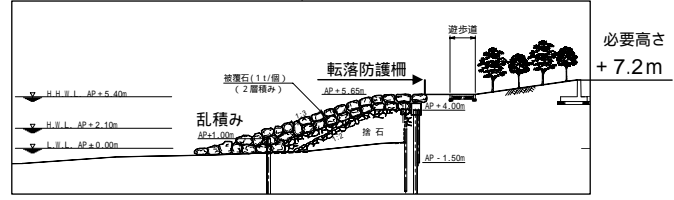
護岸バリエーションについて



アクセスを意識した護岸



基本断面



第2期地区前面の護岸バリエーションの考え方

- 区間を保全ゾーンとして考え、人の出入りを制限する。護岸への出入りは背後地からのアクセス道路前面とする。
- 基本断面での整備を考え、A.P.+3.0mまでの乱積み部には変化を持たせ、生物の生息空間とする。(親水部としない)
- 背後地からのアクセス道路前面については、階段、または、デッキを配置。小段も考慮。

アクセス道路前面のバリエーション案	計画概要	評価				
		防護面	利用	景観	施工性	総合
<p>法面を階段状に整備</p>	<p>階段により天端からA.P.+3.0mまでのアクセスを確保。 規模は幅50m程度。</p>	<p>背後での防護高さはA.P.+7.2m。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス ・ベンチ機能 ・眺望 	<p>断面形状が基本断面に近いので単調な景観となる。</p>	<p>石による階段づくりは施工面での難易度が高い。</p>	
<p>デッキを整備</p>	<p>擁壁によって展望デッキを設置。 規模は幅50m × 奥行き10m程度の長方形。</p>	<p>背後の防護高さが に比べ10cm低くなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デッキ ・広場 ・眺望 ・親水性は他案に比べて低い 	<p>断面形状が基本断面と大きく異なるのでランドマークになる。</p>	<p>施工性は良い。</p>	
<p>法面に階段、幅2mの小段</p>	<p>階段により天端からA.P.+3.0mまでのアクセスを確保し、階段の最下段に幅2mの小段を設置して小規模な滞留場を設ける。 小段形成のためにA.P.+3.0m以上の法面を2m陸側にセットバック。 規模は幅50m程度</p>	<p>背後の防護高さが に比べ10cm高くなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス ・ベンチ機能 ・眺望 ・通路(小) 	<p>断面形状が基本断面と異なるので変化のある景観となり得る。</p>	<p>石による階段づくりは施工面での難易度が高い。</p>	
<p>法面にブロック階段、幅4.3mの小デッキ</p>	<p>階段により天端からA.P.+3.0mまでのアクセスを確保し、最下段に幅4.3mの小デッキを設置して滞留場を設ける。 小デッキ形成のためにA.P.+3.0m以上の法面を約4.3m陸側にセットバック。 規模は幅50m程度</p>	<p>背後の防護高さが に比べ20cm高くなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス ・ベンチ機能 ・眺望 ・デッキ(通路) 	<p>断面形状が基本断面と異なるので変化のある景観となり得る。</p>	<p>階段にブロック等を用いるので施工性は良い。</p>	